

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「宇宙や地球の未来について話し合おう」 教材名「宇宙への思い」

2 単元の目標

情報を分類・関係付け、根拠に用いる箇所や出典を記録できる。宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報を分類・関係付け、根拠に用いる箇所や出典を記録している。 (〔知識及び技能〕(2)イ)	①「読むこと」において、宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げている。(C(1)オ・C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

宇宙に関わる文章から書き手の思いと根拠となる経験を捉え、宇宙や地球の未来への自分の考えをまとめる。大きな理想だけを述べず、本文のどの見方から考えが生まれたかを示す。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

書き手の経験・思い、自分が考えたこと、調べたい疑問を分ける。追加資料の出典と時点を記し、未来の予測は予測として述べる。おおむね満足できる状況は、宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全6時間)

次	時	学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	1	○全文を読み、書き手の経験と思いの大体を捉える。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○経験と考えの関係を整理し、関心をもった言葉を選ぶ。	知①（語句や内容の整理）
	3	○本文を根拠に、宇宙や地球の未来への自分の考えをまとめる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○考えを伝え合い、事実・予想・意見を分けて聞く。	思①（発言・学習記録）
	5	○交流を受けて本文や必要な資料を読み直し、考えに追記する。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○初めの考えとの違いと、今後確かめたい問いをまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げられる。

（2）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書き手のどんな経験や言葉から、宇宙や地球の未来を考えましたか。自分の意見の根拠になるのはどの部分ですか」 【めあて】宇宙に関わる文章から書き手の思いと根拠となる経験を捉え、宇宙や地球の未来への自分の考えをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・宇宙からの見方と普段の生活の見方を比べたい。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （分）	○「書き手のどんな経験や言葉から、宇宙や地球の未来を考えましたか。自分の意見の根拠になるのはどの部分ですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・宇宙からの見方と普段の生活の見方を比べたい。 ・書き手の経験から、自分の考えに新しい点が出た。 ・将来の予想と本文の事実を分けて話したい。	書き手の経験・思い、自分が考えたこと、調べたい疑問を分ける。追加資料の出典と時点を記し、未来の予測は予測として述べる。 想定する難しさ：宇宙への憧れの作文だけになる。将来の技術や環境を確実な事実のように語る。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 宇宙への思いを読んで未来への自分の考えをまとめ、意見の共有によって考えを広げている。（発言と学習記録）
まとめ （分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・将来の予想と本文の事実を分けて話したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書き手のどんな経験や言葉から、宇宙や地球の未来を考えましたか。自分の意見の根拠になるのはどの部分ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

